



# 全国環境連 第2回 全国大会

と き／2004年9月9日(木)

ところ／ホテルニューオータニ ザ・メイン

東京都千代田区紀尾井町4-1 電話(03)3265-1111

■主 催／全国一般廃棄物環境整備連合会

■担 当／全国環境連九州地区協議会 福岡県環境整備事業協同組合連合会

■後 援／環 境 省

## 全国環境連 第2回 全国大会の開催について

昨年5月、業界の新たな展開を目指し、志を同じくする同業の皆様方が大同団結し、新たに全国環境連を発足いたしました。本日ここに、その第2回大会を会員ならびに所属の皆様方御参集のもと、かくも盛大に開催できますことは大きな喜びであり、また、感慨も一入で御座います。

さて、ギリシャのアテネでは、オリンピックの火がめらめらと燃え上がり、男子マラソンをもって感動のうちに閉幕しました。

マラソンはよく人生に譬えられますが、私は最近、人生は駅伝みたいなものでもあるのではないかと、そんな気がしております。

『自分に与えられた区間を精一杯走り抜く。追い越してもよし、抜かれてもよし。人生とはそんなもの。抜かれたぶんは、あなたの子孫が抜き返すかも知れません。あなたの人生は、あなた一人の人生ではない。人類にとって、私たちに続く人々のために、絶やすこと、途切れることがいけないのだ』と。生命にしても、仕事にしても、また環境保全活動にしても。

そして、それらを続ける中で、最も重要なことのひとつが「たゆまぬ努力」だと考えています。

努力とは、嫌いなこといやなことを克服することの継続。社会組織の中においても、企業活動の中においても、「よしやろう」の声に対しては率先して、また、前向きで積極的な協力の行動が重要だと考えます。

使い古された言葉に、「モラトリアム人間」というのがありました。大人になろうとせず、青年期の延長線上でしか生き続けようとしないう人間のことで。仕事のことに譬えれば、古き良き時代の昔ながらのやり方で業務を続ける、そんな種類の人間と言えるかと思えます。

世の中はまさに変革の時代です。しかも、急テンポ・急展開です。安穩と従来やり方に留まっていたはダメだと思います。従来にもまして将来を見通して現在を考え、成長・発展し続ける業務の推進を目指すことが必要ではと考えるのは、私一人ではないと思えます。

年を重ねるだけでは老いない、理想を失う時人は老いる。とも言います。年をとるにつれ、年数を重ねるにつけ平日頃の「心の有り様」が、今まで以上に大事になるのではないのでしょうか。

現代に生きる私たちの環境も大きく様変わりしています。環境からより多くのものを搾取しようとして、環境に大きな負荷を与えた不幸な時代の20世紀は終わりました。21世紀は、環境のもつ価値を重視し、環境とともに生きる「環境の世紀」にしていかなければならないということは国民の総意であり、それぞれが役割を果たすべきだと考えます。

近年の環境を取巻く諸情勢を見ると、私たち業界が「環境立国」「環境の世紀」を創る一翼を担っている、大きな使命と責任を担っていることを我々一人一人がこれまで以上に強く認識し、一般廃棄物への適切な対応が必要であろうと思えます。例えば、人間が生き・生活すれば、少なくともこれに伴う環境負荷を、とりわけ水環境に与えることとなります。これら環境負荷を軽減し、また、快適な生活環境を創造し維持するために、小さいながらも革新的な技術「浄化槽」が現れました。この浄化槽を、付与された機能どおり100%の能力を発揮させる役割を担っているのが我々の業務であります。決して派手な業務ではありませんし、社会全体がまっとうに評価しているとも言えません。がしかし我々は、浄化槽のかかりつけの医者です。プロなのです。我々の社会的使命です。

今後も我々の業界・業務に対し、新たな難しい課題が押し寄せてくることも予想されます。それぞれの企業が、それぞれの職員がたゆまぬ努力を積み重ね、これらの課題に立ち向かい、我々に課せられた使命と責任を全うし、素晴らしい国民有財産である環境を保全し、子々孫々にまで引継ぎ、地域社会に貢献しながら走り続けようではありませんか。

「誇りを持たないビジネスは没落する」と言います。全国環境連傘下の会員が一丸となり、誇りを持ってたゆまぬ努力をし邁進していきましょう。

本日は、全国各地から多数のご参加をいただき、また、お忙しい中多くのご来賓をお迎えして、かくも盛大に、また、実りある大会を開催することができましたことを皆様方とともに喜び、深く感謝申しあげ挨拶いたします。

平成16年9月9日

全国一般廃棄物環境整備連合会  
会長 鳥越澄夫  
福岡県環境整備事業協同組合連合会  
会長 安田武博  
(全国環境連九州地区協議会)

## ～ 祝 辞 ～



環境整備議員連盟会長

衆議院議員 熊代昭彦

全国環境連第2回全国大会のご盛会を心よりお慶び申し上げます。

日頃より、国民の生活環境の向上にご貢献を賜り、感謝申し上げます。

現在、私は自由民主党環境整備議員連盟会長として、皆様の力強い御支援を頂きながら、生活環境の保全及び資源の有効利用の観点から、廃棄物等の発生抑制、資源のリユース・リサイクル及び適正処分の推進に鋭意取り組んでおります。

循環基本計画の策定実施、国民、NPO・NGO、事業者、地方公共団体等とのパートナーシップの育成等、国全体の循環型社会形成に関する取り組みを総合的に進めることは喫緊の課題であります。

この課題に効率的に取り組むためにも、廃棄物処理施設整備のための国の補助金を堅持し、補助率の大幅引き上げを実現することは必須の課題であります。皆様の御支援を得て必ず実現して参りたいと決意を固めております。今後とも御支援の程お願い申し上げます。

終わりに、貴連合会の今後益々のご発展と会員の皆様方のご健勝とご事業のご繁栄を心からお祈り申し上げます。お祝いのご挨拶とさせていただきます。

## ～ 祝 辞 ～



環境省大臣官房廃棄物・  
リサイクル対策部

部 長 南 川 秀 樹

全国環境連第2回全国大会が盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

日頃より、し尿の処理、浄化槽の清掃など一般廃棄物分野における生活環境の保全のために御尽力されている皆様方が「循環型社会への挑戦」をテーマに意見交換等を行うことにより交流を深め、知識や技術の向上を図ることは誠に意義深いものであり、心から敬意を表する次第であります。

さて、大量生産、大量消費、大量廃棄型と呼ばれる社会から脱却し、天然資源の消費を抑制し、環境に対する負荷ができる限り低減される「循環型社会」の形成を推進していくことは、我が国にとどまらず国際的にも重要な課題となっております。

このような中で、我が国においては、平成15年3月に「循環型社会形成推進基本計画」を策定し、循環型社会の形成に向けた数値目標と各主体の取組みを示し、その推進を図っているところであり、先の通常国会においては、国の役割の強化による不適正処理事案の解決や廃棄物処理施設を巡る問題の解決等を図るため「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の一部を改正いたしました。

環境省といたしましては、規制緩和という社会的流れは認めつつも、環境保全のため真に必要な規制は引き続き導入をしていく所存であり、廃棄物処理や浄化槽による環境の改善に求められる施策は積極的に展開してまいります。特に、浄化槽については、昨年閣議決定された「社会資本整備重点計画」の中で、下水道などと並んで恒久的な水質保全のための排水処理施設として位置付けられたところであり、今後、その普及拡大と一層の信頼性の確保のための努力を求められているところです。このように、循環型社会を構築し、安全で快適な生活環境を確保していくため、国としても、様々な施策を提案・実施してまいります。これらの諸施策も、皆様の御尽力、御協力を得てはじめてその目的を果たすことができるものです。特に永年にわたり、それぞれの地域において、生活環境の保全に貢献してこられた皆様方の社会的役割はますます重要なものとなってまいります。今後とも、会員相互の協力の下、浄化槽の適正な管理をはじめとし、廃棄物の適正処理、減量化対策に関する諸活動の充実に努められ、その重責を果たされますよう期待申し上げます。

終わりに、全国一般廃棄物環境整備連合会の今後ますますの御発展及び会員の皆様方の御健勝を祈念いたしまして、私のお祝いの言葉といたします。

## ～ 祝 辞 ～



財団法人 日本環境整備教育センター  
理事長 入山 文郎

全国一般廃棄物環境整備連合会第2回全国大会が盛大に開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

昨年、「循環型社会への新たなスクラム」をテーマに会員皆様の強い絆のもと、新しくスタートされました。このたびは、それを一歩進める形で「循環型社会への挑戦」と題して一堂に会し、交流を深め、情報交換するなかで生活環境の保全と公衆衛生の向上を図ることは誠に意義深いものであり、敬意を表する次第であります。

浄化槽法も制定されてからすでに20年が経過し、浄化槽は恒久的な生活排水処理施設、地域密着型の施設として位置付けられ、環境的にも財政的にもその果たす役割は大きく、地方公共団体や地域住民からの期待はますます高まっています。しかし、制度と浄化槽の現実との乖離が指摘されるなど浄化槽の効率的な面整備と浄化槽汚泥処理の問題は今後の重要な課題のひとつとされています。

とくに、浄化槽汚泥の一部は海洋投入、下水道投入、農地還元されてきましたが、大部分は尿処理施設において処理されてきました。一方、ロンドン条約の締結に伴い海洋投入禁止の動きにより陸上処分への転換が急務となるように尿尿・浄化槽汚泥の処理が様相を変えつつあるなか、浄化槽の適切な清掃が行えるようなマネジメントと業務の遂行がこれまで以上に必要ではないかと考えます。

全国環境連の皆様は地域に根ざして地道な業務に携わってこられた方々であり、その存在なくして廃棄物処理は語れないと思います。廃棄物処理業を通して永年培ってこられた歴史と経験、知恵があります。皆様方を取り巻く経営環境はたいへん厳しい現状ではありますが、この難局を乗り越え、事業発展のために果敢に挑戦されることをお願いします。さらに、循環型社会構築の基盤強化を図るために地方公共団体と連携し、地域住民が安心してサービスが受けられるよう地域活性化の担い手としてその重責を果たされますようご期待申し上げます。

私ども日本環境整備教育センターは浄化槽に係る教育研究機関として今日に至っておりますが、これも偏に終始かわらぬ皆様方からのご理解とご支援の賜物と厚く感謝申し上げます。今後とも浄化槽事業発展のため、一層の努力を致す所存でございますので皆様方におかれましても引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴連合会の今後ますますのご発展と会員皆様方のご健勝と事業のご繁栄を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

## ～ 全国一般廃棄物環境整備連合会第2回全国大会を祝して ～



社団法人 全国浄化槽団体連合会  
会 長 菅 野 勝 之

全国一般廃棄物環境整備連合会第2回全国大会開催を心からお祝い申し上げます。

貴連合会会員各位はし尿、ごみの収集とその適正な処理に尽力され、我が国の生活環境の保全及び公衆衛生の向上に大きな貢献を果たしてこられました。

このたび「循環型社会への挑戦」をテーマに第2回全国大会を開催されますが、循環型社会元年と言われた2000年以来循環型社会基本法を始めとするリサイクル関連法が相次いで制定されるなど法制度が整備、強化されており、全国の一般廃棄物処理業者が一堂に会し、自らの決意を内外に表明するとともに、循環型社会の中で事業者の果たすべき役割を明確にしていかれることは、誠に時宜を得たものと深い敬意を表するものであります。

近年、水環境に対する国民の関心はますます高まっております。この美しい国土、水環境を守り、将来の世代に引き継いでいくことは、現代人に課せられた大きな課題であります。

私ども浄化槽業界におきましても単独浄化槽の原則禁止、既存単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換の義務づけ、高度処理型浄化槽や膜処理型浄化槽等による厳しい水質基準への対応等々多方面で進展が見られます。また、恒久的施設としての浄化槽をいかに普及させていくかが大きな課題であり、水環境保全の一層の向上のため、個別設置から面的整備へと大きく流れが変わろうとしています。このような中で、市町村が設置主体となる「浄化槽市町村整備推進事業」の予算の大幅増額が認められております。全浄連では、昨年「浄化槽市町村整備推進事業」のパンフレットを作成しましたが、我々としてはこれらを利用して本事業の推進に大いに力を入れていきたいと考えております。

併せてこれらの動きに対応して、浄化槽の保守点検・清掃もまた適切に実施されなければなりません。我々浄化槽業界としましては浄化槽の信頼を高めるべく、関連団体相連携して取り組んでいく決意でおりますので、宜しく願い申し上げます。

最後になりましたが、貴連合会と会員の皆様の益々のご発展とご活躍を祈念し、お祝いの言葉と致します。

# 全国環境連 第2回 全国大会

## 開催の目的

私達一般廃棄物処理業者は、市町村の自治事務の代行者として今日まで、我国の生活環境の保全及び公衆衛生の向上に寄与してきたところであるが、循環型社会形成推進基本法の制定により、今後、循環型社会の実現に努めなければならない。

また、私達を取り巻く経営環境は、下水道の整備により大変厳しい状況下にあり、「合特法」制定の趣旨を踏まえた転換業務(補償)獲得が急務となっている。私達がこの難局を乗り越え、限りない発展を目指していく為、創造力を生かし、時代への適応性と機動力を発揮し、自らの力で経営革新に努めなければならない。また、日々最新の知識・技術を習得し、共通の理念を目標とし協調のもとに、厳しい環境変化に果敢に挑戦していくことが強く求められている。

本大会は、「循環型社会への挑戦」をテーマに、全国の一般廃棄物処理業者が一堂に会し、自らの決意を内外に表明するとともに、国等に対して私達の推進する施策の実現を訴え、循環型社会における全国の一般廃棄物処理業者の安定的発展と、連合会の基本理念の実現を目的とするものである。

● 主 催 ●

全国一般廃棄物環境整備連合会

● 担 当 ●

全国環境連九州地区協議会

福岡県環境整備事業協同組合連合会

● 後 援 ●

環 境 省

# 講演

- 月 日／2004年9月9日(木)
- 受 付／12:30～13:30
- 講 演／13:30～14:20
- 会 場／ホテルニューオータニ ザ・メイン(鶴の間東)

## 演 題

### 「循環型社会への挑戦」

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部  
企画課長・循環型社会推進室長 谷津龍太郎



# 本大会

■月 日／2004年9月9日(木)

■本会議／14:30～15:00

■会 場／ホテルニューオータニ ザ・メイン(鶴の間東)

## ～ 次 第 ～

- 1) 開 会 の 辞
- 2) 政府に対する要望決議(案)採択
- 3) 大会スローガン(案)採択
- 4) 大会宣言(案)採択
- 5) 会 長 所 信 表 明
- 6) 閉 会 の 辞

## 政府に対する要望決議（案）

私達、一般廃棄物処理業者は今日まで、市町村の自治事務の代行者として長年に亘り、我が国の廃棄物行政の一翼を担い、生活環境の保全及び公衆衛生の向上に重要な役割を果たしてきました。

しかしながら近年、下水道整備の進歩による業界の業務縮小に加え、市町村合併、規制緩和等の構造改革の真只中であって、多大の危機感を抱いております。そのため私達は、廃棄物の適正な処理体制を一層推進し、国民、事業者、地方公共団体及び国の役割分担のもとに、循環型社会を実現していかなければなりません。

特に、地域住民の日々の暮らしに直結した一般廃棄物の適正な処理は、地域社会にとって不可欠な重要課題であることから、下記の事項について特段の措置を講じられますよう切に要望するものであります。

### 記

- 1) 下水道整備の進歩により影響を受けるし尿処理業者等に対して、安定かつ継続する業務を提供する観点から「下水道の整備等に伴う一般廃棄物処理業等の合理化に関する特別措置法」に基づく合理化事業計画の策定等により、市町村において適切な対策が講じられるよう指導されたいこと。
- 2) 市町村合併時において、一般廃棄物の適正な処理体制を確保する観点から、市町村が従来通りに対応できるよう、廃棄物処理法の運用について適切な経過措置を講じられたいこと。
- 3) 汚水処理施設の整備(下水道、浄化槽、農漁集排、汚泥再処理センター、ゴミプラ)については、地方公共団体の財政が逼迫していることから、経済的、効率的に整備が推進されるよう指導されたいこと。
- 4) ディスポーザーの普及に伴い、水質保全の観点から、その排水処理システムの確立及び維持管理については速やかに法体系の整備を図られたいこと。
- 5) 市町村の自治事務である一般廃棄物については、不法投棄防止の観点から、市場経済一辺倒の運用にならないよう配慮されたいこと。
- 6) 三位一体改革による廃棄物処理施設整備費補助金の廃止問題については、これを廃止するのではなく、地域のニーズに対応しつつ、補助金の存続はもちろんのこと、補助率の引上げや補助対象の拡充を図られたいこと。

# 全国環境連

## 第2回全国大会スローガン(案)

1. 下水道整備の進捗に伴う転換業務(補償)獲得
1. 不法、不当な新規許可絶対阻止
1. 市町村合併時における既得権益の尊重
1. 浄化槽の経済的かつ効率的な整備促進
1. ディスポーザー排水処理システムの確立及び立法化
1. 会員のための情報収集と情報提供の充実
1. 組織の拡大と人材育成
1. 労働災害ゼロの徹底と福利厚生の拡充
1. 循環型社会に向けて廃棄物リサイクル技術の開発

## 大会宣言(案)

私達、一般廃棄物処理業者は市町村の自治事務の代行者として、これまで幾多の辛酸をなめつつ、行政の机上では計り知れない厳しい試練を乗り越え、我が国の生活環境の保全及び公衆衛生の向上に大きく貢献してきたところである。下水道整備の進歩による業界の業務縮小に対し、「合特法」に基づく、転換業務(補償)獲得のため、合理化事業計画の策定とその確実な実行を強く市町村に要望するものである。

私達、一般廃棄物処理業者が今日の難局を乗り越え、さらなる発展を目指していくため、その創造力を生かし、私達の持つ機動性と柔軟性を十分に発揮しつつ、自らの手で経営革新に務めるとともに、幅広い分野の知恵と技術を結集し、今後も地域住民の快適な生活環境の確保に努めるものである。

第2回全国大会のテーマである「循環型社会への挑戦」を標榜し、循環型社会形成推進基本法の趣旨を踏まえ、業界の意識改革のもと社会的評価を得る事業の展開に取組み、循環型社会の形成を目指すものである。

私達は、組織拡大を図りながら強固な団結と協調の下、新しい環境に挑戦し、全国環境連の基本理念を実現することを誓うものである。

以上宣言する。

平成16年9月9日

全国一般廃棄物環境整備連合会  
第2回全国大会

# 大会式典

■月 日／2004年9月9日(木)

■受 付／14:30～15:30

■式 典／15:30～16:45

■会 場／ホテルニューオータニ ザ・メイン(鶴の間東)

## ～ 次 第 ～

- 1) 開 会 の 辞
- 2) 物 故 者 に 対 す る 黙 禱
- 3) 大 会 式 辞
- 4) 優 良 役 員 、 従 業 員 表 彰
- 5) 受 賞 者 代 表 謝 辞
- 6) 来 賓 祝 辞
- 7) 来 賓 紹 介
- 8) 祝 電 披 露
- 9) 閉 会 の 辞

# 懇親会

■月 日／2004年9月9日(木)

■受 付／16:00～17:00

■懇親会／17:00～19:00

■会 場／ホテルニューオータニ ザ・メイン(鶴の間西)

## ～ 次 第 ～

- 1) 開 会 の 辞
- 2) 会 長 挨 拶
- 3) 来 賓 祝 辞
- 4) 来 賓 紹 介
- 5) 乾 杯
- 6) 万 歳 三 唱
- 7) 閉 会 の 辞